

不登校について

新潟大学教育学部

長澤正樹

不登校の実態と背景

- 不登校児童生徒、約13万人
- 背景は？

目的意識の希薄化

学校に行ってなんになる？

義務教育の意識の希薄化

学校行って行かなくてもいいんじゃない？

社会的スキルの未熟さ

人とうまくつきあえない

耐性の欠如

こらえ性がない
我慢ができない

自己決定力の未熟さ

もちろん、本人以外にも、さまざまな要因があります

小林(2005)

不登校問題の形成要因

発達障害

自己決定力の弱さ
自己管理の弱さ

自己解決力 欠如
Social skills
Self-Control

不登校
ハイリスク

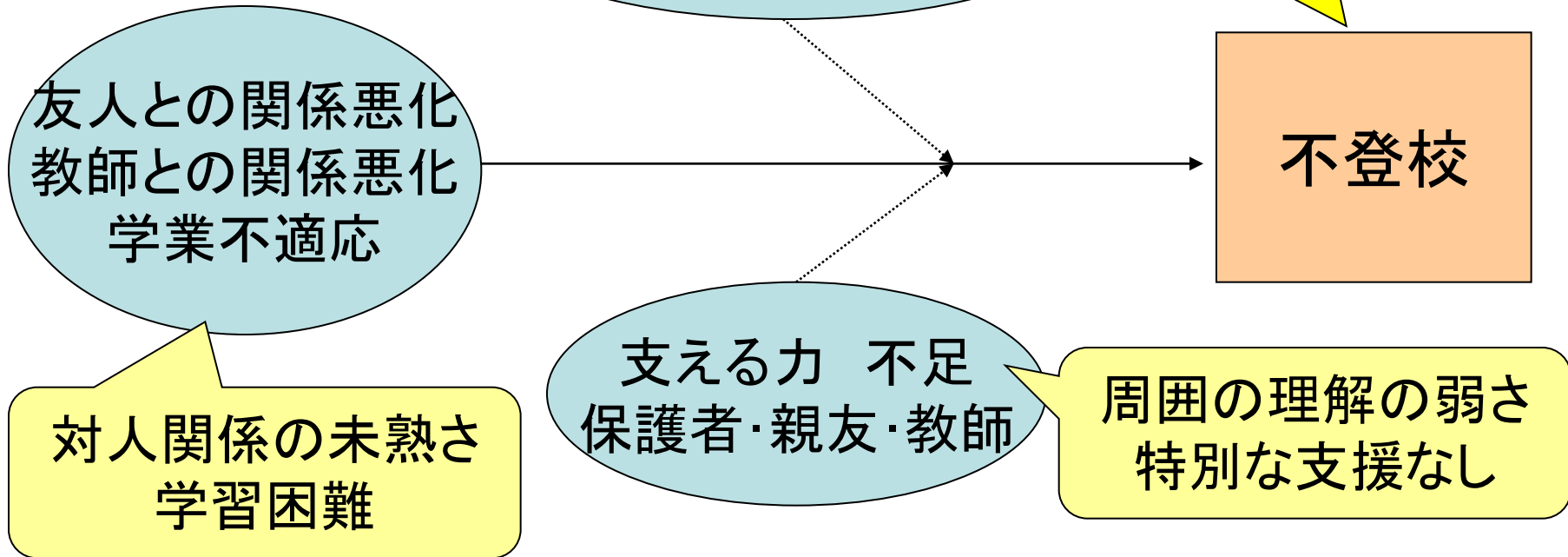
友人との関係悪化
教師との関係悪化
学業不適応

不登校

対人関係の未熟さ
学習困難

支える力 不足
保護者・親友・教師

周囲の理解の弱さ
特別な支援なし



不登校への対応

- 原因がはっきりしている

原因となっている要因への対応

- 原因がよくわからない、原因は分かるが時間がたちすぎている

原因を取り除こうとしても、困難である
目標意識を育てる

不登校への対応(一般論)

- 保護者へ

- － カウンセリング

問題の核心の認識

- － 母親に対して

自分の生き方の再認識

- － 父親に対して

夫婦で乗り越える姿勢を

- 教師

- － つながりを大切に

- － つながりがもてるテーマを大切に

学校と保護者との連携(協働作業)

継続的な話し合いと実行、確認

ひきこもり、不登校と自己決定力

- 自己決定力の未熟さ、未獲得
- 自己肯定感の低さ(自信のなさ)
- 失敗をおそれ、新しいことに挑戦しない

自己肯定感を育てる
自分でできめられるよう支援する(自己決定の尊重)

自己肯定感を高めるかかわり

- 生徒のやる気を高めるかかわり

親しく声をかける、生徒の話に関心を持つ

- できたという成功体験をあたえる

達成可能な目標設定

- 自分にはできるという自信を育てる

結果がどうあれ、努力を認める

- 自分でも役に立つという体験を与える

生徒に仕事を与え、感謝する
生徒会活動、ボランティア体験

どんなことでもいいので、ほめて伸ばしましょう

学習障害と二次的な問題

読み書きの困難さ

教科学習の困難さ、学校生活での失敗経験

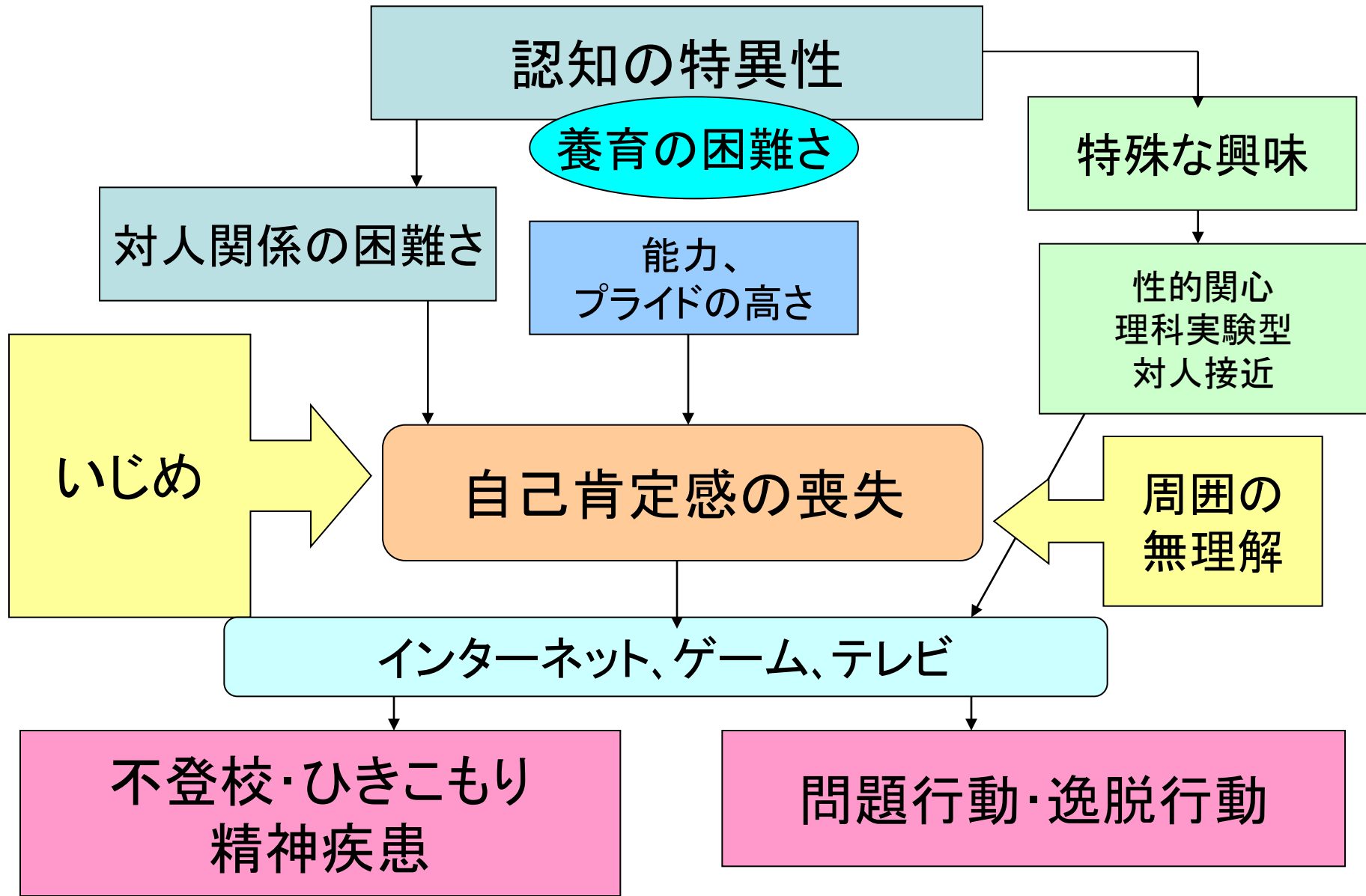
いじめ
人間関係の
問題

自己肯定感の喪失

周囲の
無理解

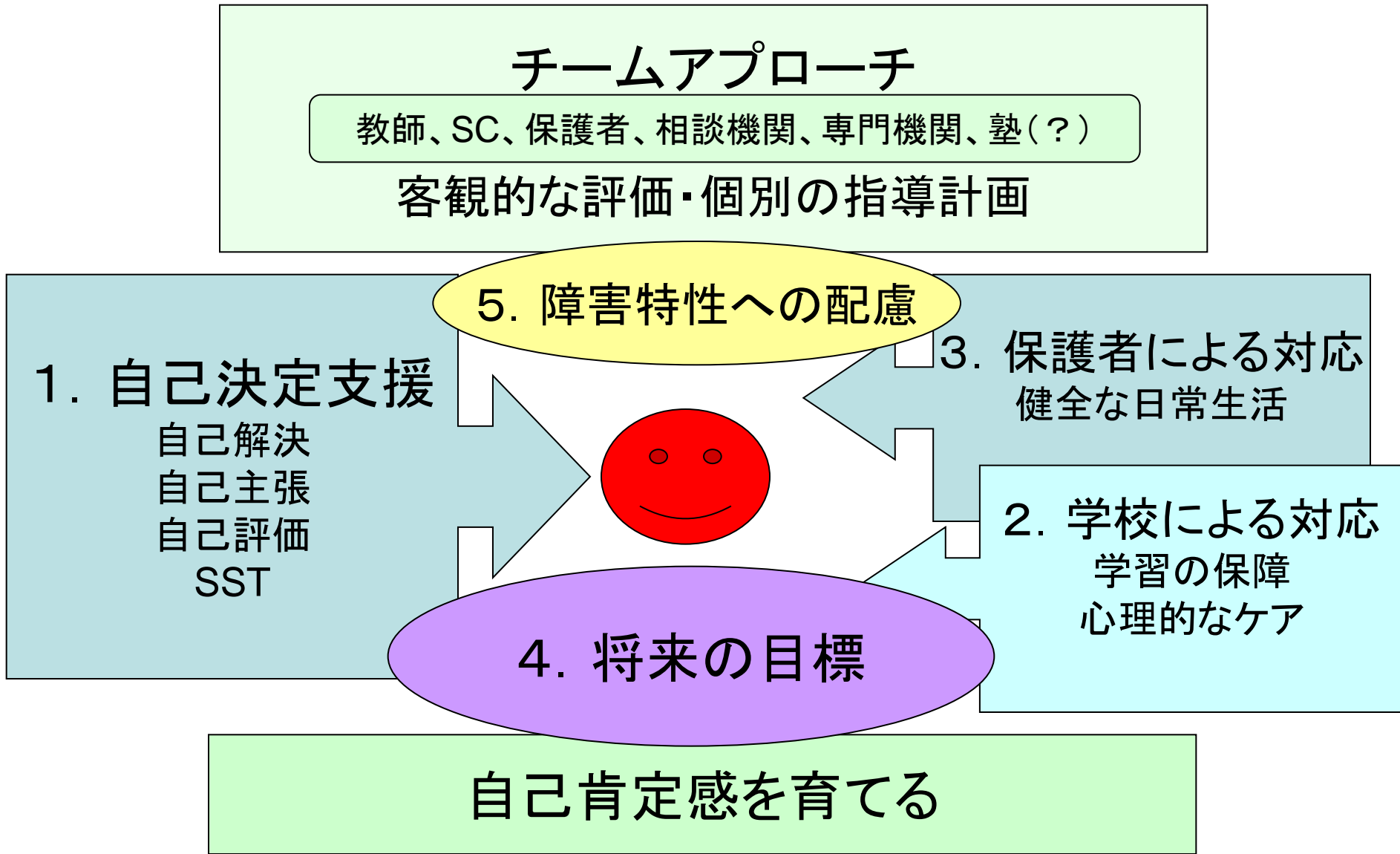
不登校・ひきこもり

PDDと二次的な問題



発達障害のある子どもの 不登校への対応

不登校への対応（概念図）



1-1 自己解決法の基本



学習スケジュール表(例)

7月18日(金)

本日の活動計画をたてましょう。

年 組 番 氏名

今日の予定(学級)	私の計画	連絡
朝の会・学年朝会 (8:20~8:30)		体験入学説明会
1限 ○○先生()		フリースペース
2限 ◎◎先生()		
3限 △△先生()		
4限 自習先生()		
昼食・昼休み		
清掃		
5限 集会・結団式		
6限 学活		
帰りの会		
放課後		

適応教室の学習スケジュール。系統的な学習の保障
可能な範囲内で生徒の自己選択を

1-2本人へ：スモールステップ

できることはからはじめ、できたことを評価する。
目標のステップアップを

通常学級へ

↑
適応教室＋移動教室での学習

↑
適応教室での学習

↑
保健室登校

↑
放課後、登校

↑
近くの図書館で学習

リハーサル、自己記録・評価(PDS)

2-1学校の対応

- 学習の機会、学力の保障

可能性の強調(君ならできる)、支援の具体的内容の提示

- 心理的なケア(SC、教師)

カウンセリング、SST、自己決定の指導

- 同級生による支援

同じ趣味、特性を持つ生徒との交流

- 支援計画の作成

問題解決の見通しを具体的に示す

2-2教師による評価

- 評価のポイントをきめておく
 - － 登校の状況、適応教室での学習など
 - － 家庭の様子：活動、意欲、外出など
- 定期的に評価する
 - － 1週間、1ヶ月、半年などさまざまなスパンで
 - － 長期的な傾向を見極める
- 保護者、本人に知らせる
 - － 次の一歩につながる評価を

3-1 保護者の対応

- 自然な関係作り

自然な会話、余計なプレッシャーをかけない

- 健全な日常生活

健全なリズム、家庭の仕事、余暇(親子のふれあい)

- 両親による役割分担

父: 目標と見通しを示す、母: 相談相手。夫婦の協働作業

- 学校との連携

定期的な情報交換、支援計画の作成と共有
学校と保護者との協働作業

3-2保護者への対応(1)

- 指導より支援を

こちらの主張を抑えてできるだけ話を聴く

- 具体的な話し合いを

データを示す、情報を数値化する

- 決定事項は文書化すること

個別の指導計画、支援計画。親自身の目標も

- 合併症を見極める

チームのメンバーとしての資質、うつなどの合併症

保護者との協働作業による問題解決を

3-3保護者への対応(2)

- 小さな変化を評価する

話し合いはまずできたこと、できていることを評価

- 家庭内のかかわりを評価する

親のがんばりを認める、誉める

- 親個人の悩みにつきあう

時には、個人の生き方、生活の悩みや愚痴につきあう

- 次回までにできることを確認する

無理なくできることを。次回の話し合いの日程を

保護者個人を支援。親が元気になれば子どもも元気になる

3-4家庭内暴力への対応(伊藤、2005)

- 精神医学的チェック
 - 医療的ケアも念頭に
- 暴力が起きない対応を
 - 受容は誤り、暴力には毅然とした態度
 - 弱い者はその場から離れる
- 家族の社会化
 - 他者を入れる(親戚)
- 親への支援
 - 対応の仕方を教える
- 必要に応じて別居する

家庭内暴力には第三者の介入と介入の実効性を高めること

4本人へ：将来の目標

- 趣味や特技、関心のあることを聞く

子どもの話に関心を持つ。話をふくらませる

- 将来の夢、進学希望、職業などを聞く

考えられる結果の提示。具体的に示せなくても良い

- 将来の夢への見通しを提示する

夢の実現に向けての道筋を具体的に示す

- 目標への意欲を高める

今から取り組んでも遅くないことを強調
できそうなことを見つけて、一歩踏み出すことを促す

5障害特性への配慮

- 知的能力を考慮する

わかりやすい説明、できないことによる劣等感への気づかい

- ADHDの特性を考慮する

話を聞いてクールダウン、集中できる部屋
問題行動とできていることを分けて説明

- アスペルガー障害の特性を考慮する

問題が起きる過程の視覚化(見てわかるように)
論理的な説明
他者理解ができる工夫

障害特性を最大限に考慮し対応を検討する

1000ポイント:ゲームソフト
500ポイント:ファーストフード店での食事
100ポイント:カード10パック
20ポイント:ゲーム1時間追加
10ポイント:テレビ2時間、ゲーム1時間

約束

登校した:5ポイント
適応教室で1時間学習:1ポイント
(1時間ごとに1ポイント追加)
通常学級で30分学習:2ポイント
行事への参加:3ポイント

無理なく登校できると
普通の生活が保障される

約束を具体的に

トークンを活用した登校支援

まとめ

- 不登校などの問題は包括的なアプローチを

ひとりで抱え込まない
複数のメンバーがチームで対応。指導モデルに従う

- 目先の問題より将来の目標

現状の認識と解決への意欲

- 発達障害の特性にあった対応
 - 自己肯定感を育てる
 - 学習支援、対人関係支援など

担任へのコンサルテーション

担任が抱える問題を、
担任とともに解決する方法

担任への支援:コンサルテーション

- コンサルテーション:コーディネーターが聴き役となり、一緒に問題を解決する
- 協働作業による問題解決
 - お互いの立場を尊重し、解決志向で話し合う



コーディネーターは自分自身の問題としてとらえる

コンサルタントの姿勢

- 相談者を尊重する: 対等な関係
- 相談者の問題や生き方に関心を持つ
- 問題の詳細を知ろうとする

丁寧に質問し、受容する

- 相談者にとって役立つ情報を提供する

押しつけない、一緒に調べる

- 自分の問題として解決しようとする

悩みを共有する

コンサルテーションのポイント(1)

- 相談の場の設定

場所、配置、設定

- 相談者のニーズの分析

解決したい？ 聴いてもらいたい？

- 相談者の問題意識

解決にどれだけコストをかけられるのか？

- 主訴を明確に

困っている問題を具体化、優先順位

コンサルテーションのポイント(2)

- できそうな目標をきめる

望ましい行動より、悪くない行動

- できそうな対応を提案し、相手に選んでもらう

情報を提供し、押しつけない

- 誉めることを意識させる

悪くないときにも誉めるように

- 望ましい行動の記録を認識してもらう

望ましい、悪くない行動の記録を提案する

長澤研究室



<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~nagasawa/>

メールマガジン、特別支援教育・発達障害の情報、資料